山協ニュース

岩手県山岳協会
第 201 号
平成 29 年 8 月 31 日発行
long-distance.jp/sangaku/

盛岡一高女子チーム全国の頂点へ

盛岡工業男子 97.4 点の高得点 9 位

全国高等学校登山体育大会(南東北インターハイ)は、7 月 30 日(日)から 8 月 2 日(水)までの 4 日間、山形県蔵王山系で開催され、本県代表の盛岡第一高等学校登山部女子チーム(リーダー　山村あゆ、メンバー　山本　花、西森　優、山下ちひろ、監督　広瀬謙三)が一昨年に続いて

の全国制覇。

昨年の岡山インターハイでは98.7 点で優勝校と僅差の 3 位に甘んじた雪辱を果たした。競技は、体力、歩行、装備、テント設営撤収、炊事、天気図、課題テスト(自然、救急、気象)、計画書、行動記録、読図技術、マナー、自然保護の 13 項目 100 点満点の減点方式で行われ、盛岡一高チームは、天気図、救急と気象でそれぞれ減点を 0.1 点としで総合 99.7 点。第 2 位の長崎県の強豪大村高校とは、0.4 点の差。正に知力と体力とチームワークでの日本一。

リーダーの山村あゆ選手は、一年生で優勝、昨年三位、そして今回の優勝と後輩たちをしっかりとリードしての立派な成績。三年間ご苦労様。

同じく、男子代表の盛岡工業チーム(リーダー　菅原輝一、メンバー　菊地　然、渡邊佳辰、坂口剛弘、監督　小野寺　訓)は、入念な事前合宿等厳しい訓練を積んで大会に臨んだが、大会直前に主力選手のケガで選手交代を余儀なくされ 9 位となり惜しくも入賞を逸した。それでも得点は、97.4 点。天気図 2 点の減点が響いた。しかし今年も両チームの活躍は本県の登山競技レベルの高さを全国に示すこととなった。昨年 12 月の全国高等学校選抜クライミング選手権大会で優勝した盛岡南高校男子チームに続いての全国優勝である。

選手諸君の健闘とともに山岳岩手の伝統を守り、全国高体連登山部をリードしている県高体連の指導スタッフに感謝したい。

みんなで鈴木大地スポーツ庁長官と「ふるさとの山・岩手山を登ろう！」キャンペーン

山の日制定記念「ふるさとの山を登ろう！」キャンペーンが、鈴木大地スポーツ庁長官や地元スポーツ少年団、そして県内外の登山愛好者 1,500 名の参加のもと 7 月 1 日（土）の岩手山山開きとコラボ企画で実施しました。

今回の企画は、(公社)日本山岳・スポーツクライミン

鈴木長官と岩泉町バレーボールスポーツ少年団等(岩手山頂)

協会主催でスポーツ庁、観光庁、環境省東北環境事務所、岩手県等の後援のもと岩手県山岳協会が主管して開催しました。

当日は、前日までの猛暑とはうって変わって霧雨のな

か、午前6時から標高633mの馬返し登山口で、神事と山開き式が行われ、柳村典秀滝沢市長、鈴木スポーツ庁長官、県山協高橋時夫会長らが玉串奉奠、鈴木長官は挨拶で山での事故防止を呼びかけた。テープカットのあと岩泉町バレーボールスポーツ少年団の女子6名に八幡平市の山ボーイ小学生3名も合流して2,038mの山頂を目指して出発。霧雨と、時折薄陽の射すあいにくの天気の中、4合目までは新道を進む。5合目付近からは視界は回復しつつあるが相変わらずの雨模様。それでもハクサンチドリ、シラネアオイ、イワカガミなどの高山植物に励まされ午前10時15分、八合目避難小屋に到着。山小屋では県山協の中島隆之医師を中心に看護師の協力で今年初めて開設された夏山臨時診療所が万一に備える。小雨模様のため、120人収容の山小屋は満杯状態。一息入れて、正午に始まる山頂セレモニーを目指して砂礫帯を登る。外輪に出るころには、横なぐりの小雨模様となる。

11時50分、鈴木長官と岩泉町バレーボールスポーツ少年団等の子供達も元気に登頂。山頂は多くの登山者で賑わう。

正午に滝沢市、八幡平市、雫石町の登山隊によるピッケル交換、万歳三唱、鈴木長官も挨拶で、国民の祝日山の日制定の意義、そして「雨の中でも多くの県民が岩手山登山に挑戦している姿は、昨年大成功に終わった希望郷いわて国体のレガシーだ。」と登山の普及に期待を述べ激励した。

山頂での鈴木長官の挨拶

今回の企画は、昨年8月11日に施行された祝日「山の日」が「国民こぞって、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」であることの趣旨を広く県民に、周知されることを目的として開催された。

風雨の中、元気に鈴木長官と山頂に立った子供たちにとって、初めての岩手山登頂は、厳しくも楽しい思い出深い登山になったことでしょう。

今年も、山頂では沢山の市町村旗、社旗、団体旗、協会旗がたなびくなか1,500名を超える登山者が、歓喜の輪を作りました。

今回の山の日キャンペーンは、地元報道機関をはじめ、「見渡せば歓喜」の見出しで、各地方紙の紹介もあり全国に発信されました。

県山協では、今年も山の日制定記念のオリジナルのぼりも作成して県内の主要な山の登山口に掲げるなど「山の日」周知に努めています。(報告　登山普及部長　山口吉男)

県山協 沢登り講習会・指導員研修会

期日：平成29年8月27日（日）

場所：金ヶ崎駒ヶ岳　湯ノ沢

講師：駒ヶ嶺（北上山岳会）

参加者：中島・諏訪木・駒込・塚本（北上山岳会）、渡邊・松山・福田（岩手アルペンローズ山岳会）、盛合（福岡山好会）、吉田（盛岡山想会）、井壺（滝沢市山岳協会）、田沼（盛岡RCC）計12名

朝7時30分に夏油温泉駐車場に集合。天気は晴れて暖かく絶好の沢日和である。開講式の後、7時40分に出発。「洞窟の湯」の手前を右から高巻き入渓。小さな滝を幾つか越えていくと狭い廊下があり、その奥には7mの滝があった。この滝は右側のルンゼ状の岩場を高巻くことにしたが岩が脆いためロープを下ろした。各自、登高器を持参していたが初めて使用する受講者もいたため、その使い方を確認し慎重に登った。

３つほど３～５mほどの滝を過ぎた後に大きく視界が開け、そこには15mのスラブ状の滝があった。右側の滑りやすいスラブを沢靴のフリクションを確かめながら登った。これを越えるとすぐに80mの大滝が現れた。トップが右側の凹角沿いに登り、50mロープを直列に2本固定した。晴れた空の元、水しぶきを浴びながら気持ちよく登る。

滑床を進むと15mの滝があり、講師の駒ヶ嶺がフリーで登った。他の参加者は左のブッシュから高巻いた。松

山が滝を登ることを希望したためロープを下ろしてもらう。滝の中ほどでは流れの中央を突破しなければならない。松山はその中央で足を滑らしロープに救われたがその後は完登。中島も後に続くが中央を突破できず、ロープを「ごぼう抜き」しながらどうにか登った。駒ヶ嶺の登攀能力の高さを改めて実感した。

さらに滑床を進むと深い釜をもつ５ｍの滝があった。左側の小さな凹凸のある滑りやすいスラブを登る。数人は足を滑らしロープに救われた。松山と渡辺は右側のスラブに興味をそそられ、フリーで登る。滝の落ち口には微妙なホールドしかないため難しそうであった。

その後は徐々に傾斜が緩くなり、沢を出てブッシュをこぐと2～3分で夏道に出た。遡行時間は約5時間。軽く行動食を摂って夏油温泉に下山した。この日の北上市の最高気温は29℃であったが、沢では涼しく気持ちよく遡行できた。湯ノ沢は遡行距離が短い割には大小の滝があり、初心者から上級者まで楽しめる沢である。沢登りの初心者も2名参加したが得るものが多い遡行であったようだ。　　（報告：中島隆之（指導部副部長）

【岩手山八合目初の臨時診療所開設】

本格的な夏山シーズンを迎え、多くの登山者の安全をサポートするため岩手県山岳協会では、関係者の協力のもと7月1日(土)朝から2日(日)の昼過ぎまでの二日間、岩手山八合目避難小屋内に夏山臨時診療所を開設しました。

臨時診療所には、常駐医師として盛岡友愛病院副院長の中島隆之医師(国際山岳医・北上山岳会)をチーフにボランティア医師・看護師、事務スタッフらがチームを組んで対応しました。早速、1日の山開きの日には、あいにくの小雨模様でもあり、軽い高山病や疲労で具合を悪くした10名近くの登山者の対応に追われていました。なかには、一晩、静養して翌日サポート隊と一緒に下山する方や県防災ヘリでの搬出等多忙を極めました。幸いスタッフの的確な対応もあり全員無事に下山しました。

山の日を挟んで夏山登山のピークとなる8月10日(木)～8月12日(土)の間も、体調不良の登山者への対応に追われる等２回にわたる臨時診療所の開設は登山者にとって頼もしい存在となりました。

「2017岩手山ボッカ大将」結果報告

６月１０日（土）に開催された「２０１７岩手山ボッカ大将」結果報告です。

恒例行事の岩手山八合目避難小屋への荷上げ（ボッカ大将）が、加盟10団体51人の岳人の協力のもと実施し総重量1018.18ｋｇを荷揚げし無事終了しました。最高は、昨年に続き翌檜山岳会の渡辺良平さん(**二年連続ボッカ大将**)の52.86ｋｇ、女子は北上山岳会の上戸ゆみさんの35.72ｋｇでした。協力頂きました岳人各位に感謝します。

当日は、夕刻より武田副会長の挨拶、ボッカ大将等の顕彰後、交流会が始まり、山小屋管理の重要性や使命等も含めて岳人の交流がより深まったと思っております。翌１１日(日)は朝食後、小屋清掃・トイレ清掃・毛布干し等を手伝っていただき、三々五々解散となりました。１０日当日荷上げ後、都合で下山した岳人もおり、改めてお礼を申し上げます。次回は是非交流会に参加して交流を深めていただきたいと思います。

ボッカ大将の結果を以下に記載します。

一般男子

１位　渡辺良平　52.86ｋｇ　翌檜山岳会
２位　竹田隆介　47.80ｋｇ　アルペンローズ
３位　駒込幸夫　43.5ｋｇ　北上山岳会
４位　鈴木　清　40.60ｋｇ　巌鷲山岳会
５位　千田　浩　31.04ｋｇ　ＲＣＣ

６位　松田　博嗣30.72ｋｇ　北上山岳会

一般女子

１位　上戸ゆみ　35. 72ｋｇ北上山岳会

２位　天沼秀子　28.52ｋｇ　ＲＣＣ

３位　橘　澄江　21.0ｋｇ　矢巾山好会

４位　佐藤広子　20.02kｇ　巌鷲山岳会

５位　渡辺美智子19.90ｋｇ　アルペンローズ

今年度の荷上げ品の一人平均は19.96ｋｇ（昨年度19,86ｋｇ）でした。

男　34人　754.88ｋｇ　　平均　22.20ｋｇ（昨年度942.6ｋｇ平均21.92ｋｇ）、女17人　263.3ｋｇ　平均　15.49ｋｇ（昨年度249.0ｋｇ　平均14.65ｋｇ）。あらためて山岳協会加盟各団体の結束力に感謝し、お礼を申し上げます。(山口吉男登山普及部長)

IFSC アジアユース選手権大会で健闘

7月5日から9日までオリンピック世代の大会といわれているIFSCアジアユース選手権大会がシンガポールで開催され、日本代表としてユースＡに**中島大智選手**、ユースＢに**伊藤ふたば選手**が出場しました。中島選手はボルダリング３位、コンバインド(リード、ボルダリング、スピード)で日本選手最高の３位に、伊藤選手はボルダリングで昨年に続き優勝を収めました。二人は、8月30日～9月9日オーストリアのインスブルックで開催の世界ユース選手権大会に日本代表として出場します。活躍を期待したいと思います。

種目	中島大智	伊藤ふたば
リード	5位	3位
ボルダリング	3位	1位
スピード	14位	8位
複合(コンバインド)	3位	競技なし

*2017*鞍掛山トレラン大会開催

滝沢市の鞍掛山に会場を移して８回目となる協会、恒例の2017鞍掛山トレイルランニング大会は、7月16日（日）過去最高の200名の選手の参加のもと、加盟団体競技役員47名の協力を頂き「たきざわ自然情報センター～相の沢牧野～馬返し登山口～鞍掛山～自然情報センター」間で開催。当日は、梅雨前線の影響で大雨警報が発令され、大会中止の判断も検討しなければならない悪条件。荒天対策として、安全面を考え山岳コースを避けて一部競技コースの変更により開催。成年男女、少年男子16.8㎞→14.2km、少年女子12.5㎞→8.4km で競技が行われた。開会式では、来賓の柳村典秀滝沢市長から激励のことばを頂く。スタート合図のピストルが湿気で不発で、小山審判長の声のスタートというハプニングも発生したが、雨模様の中の大会は無事に終了した。大会は、9時一斉スタート。この大会は、登山の基本である脚力と体力の強化を目的に開催としており、山野を駆け巡り、登山の基本である体力、脚力を鍛えることを目的に開催。年々参加者が増加傾向にあり、ローカル大会として定着し県外からの出場者も目立ってきました。

なお、前夜は、競技役員による持寄りの名酒等で交流会も行われた。

2017鞍掛トレラン結果

種　目	出場	1位	2位	3位
一般男子（49歳以下）	67	柴田良幸（滝沢市）	矢内正一（滝沢市）	藤原大樹（盛岡市）
一般男子（50歳以上）	19	髙橋正治（雫石町）	近藤修三（盛岡市）	橋本久（盛岡市）
一般女子（49歳以下）	17	畠山望美（盛岡市）	佐々木裕実（盛岡市）	海沼豊子（盛岡市）
一般女子（50歳以上）	3	杉沢千雅子（盛岡市）	伊藤礼子（花巻市）	奥　きぬ子（盛岡市）
高校生男子16.8km	47	女供雄太（盛岡農）	橋本創（盛岡南）	八重樫海斗（盛岡南）
高校生男子12.5km	6	三上叶人（盛岡工）	中村寛人氏（盛岡工）	藤澤慎之介（盛岡工）
高校生女子16.8km	22	滝沢日菜（盛岡南）	小田綺花（盛岡南）	上川原遥（盛岡南）
高校生女子12.5km	19	赤間海紗綺（盛岡南）	伊藤みなと（盛岡南）	髙橋彩佳（盛岡南）

大会開催にあたり、**滝沢市、滝沢市山岳協会**には、運営、コース整備等に、**盛岡友愛病院、石井スポーツ、グリーンハウス、回転ずしの田清「清次郎」、しまざき歯科医院**の各社からは、協賛金、賞品等ご協力を頂きました。ありがとうございます。

◎鞍掛トレラン協力団体

翠檜山岳会、岩手アルペンローズ山岳会、巌鷲山岳会、高体連、都南山岳会、矢巾山好会、滝沢市山岳協会、矢巾町山岳協会、矢巾山好会、ハイエストカンパニー、悠々山の会、福岡山好会、滝沢市役所

（報告　遠藤敏英　競技運営部長）

県山協岩登り講習会兼指導員研修会

1　開催期日：平成29年8月6日（日）

2　開催場所：遠野市観音岩（仙人トンネル遠野市入り口付近）

3　参 加 者：佐藤誠（都南山岳会、副理事長）土井祐之（北上山岳会、指導部長）田所一志（岩手ｱﾙﾍﾟﾝﾛｰｽﾞ山岳会、指導員（講師））松山貴章（岩手ｱﾙﾍﾟﾝﾛｰｽﾞ山岳会、指導員）渡辺良平（翠檜山岳会、指導員）藤原拓（ハイエストカンパニー、指導部）韮澤優（翠檜山岳会、指導部）阿部清人（岩手ｱﾙﾍﾟﾝﾛｰｽﾞ山岳会）吉田克彦（盛岡山岳会）上戸ゆみ（北上山岳会）菊池美雪（和賀町山岳会）見学者5名（三浦一彦、高橋健太郎、佐藤慎吾、鈴木誠、佐藤一枝）　　計16名

4　報告

9：30に観音岩基部において開講式を行いました。今回の岩登り講習会兼指導員研修会は、アルパインクライミングの基礎知識・技術の習得について、また、アルパインクライミングにおけるセルフレスキューの知識・技術の習得についての2点を目的として開催しました。

まず、田所一志講師（指導部）からセルフビレーにおける支点構築とビレーヤーの脱出について説明があり、その後2グループに分かれ講習を行いました。

アルパインクライミングの基礎知識・技術の習得については、「上を向いて登ろう」ルート（10b～10c）をトップロープで登りムーブや登り方、支点構築、ビレーの仕方について学びました。ルートのスタート地点の岩がやや湿っていて苦労しましたが、多くの受講者が完登していました。アルパインクライミングにおけるセルフレスキューの知識・技術の習得については、トップクライマーが墜落し意識がない状態において、ビレーヤーが荷重のかかっているメインロープから脱出する一連の動作を「不ぞろいのリング達」10aのルートを使い行いました。この際、ロープワークとしてオーバーハンドノット、ムンターヒッチ、インクノット、プルージック、マリナーノット等を使い、空いている時間を利用し自で繰り返し練習を行ってもらいました。

参加者の皆さん

それぞれの講習を2時間ほど行ったあとに入れ換えし、さらに2時間ほど講習を行いました。

4:00に閉講式に閉講式を行い、その中で「ビレーヤーの脱出について初めて行い有意義だった。」「ロープワークをしっかり覚えたい。」また、秋田県からの参加者（見学者）の方々からは「秋田県ではこのような講習会はないので、また参加したい。」という意見も出されました。

ビレーヤーの脱出

観音岩「上を向いて登ろう」

報告　土井祐之（指導部長）

第４４回東北総体山岳競技報告

今年で 44 回を迎えた東北総合体育大会山岳競技は、秋田県が開催幹事県として 7 月 21 日（金）から 23 日（日）までの３日間、秋田市で開催。4 種別で競技が行われました。第一日目のボルダリングは雨の中での大会となりましたが屋内施設のため予定どおり実施。二日目のリード競技は雨で競技条件が悪いということで東北総体始まって以来、初めての競技中止となりました。

このため総合順位と国体出場権は、第 1 日目のボルダリング競技結果で決定この結果、少年男女と全県フルエントリーの成年男子は、国体出場権を確保しましたが、成年女子は惜しくも、国体出場権を獲得できませんでした。また県別総合優勝も、8 年ぶりに獲得を逃し宮城県に譲ることとなりました。岩手県勢としては、リードは得意種目でもあっただけに、天候に左右され悔しい結果となりました。その分、愛媛国体で頑張りましょう。

種別	種目	青森県	**岩手県**	宮城県	秋田県	山形県	**福島県**
成年男子	L	荒天により中止					
	B	5	1	3	6	2	4
	総合	5	1	3	6	2	4
成年女子	L	荒天により中止					
	B	6-	5	1	3	4	2
	総合	6-	5	1	3	4	2
少年男子	L	荒天により中止					
	B	4	2	1	5	3	6
	総合	4	2	1	5	3	6
少年女子	L	- 荒天により中止					
	B	-	2	3	4	-	1
	総合	-	2	3	4	-	1
総合		6	2	1	5	4	3

第 69 回県体山岳競技兼国体選手選考会

69 回を数える県民体育大会山岳競技兼第 10 回国体選手選考会が、6 月 24 日（土）と 25 日（日）の 2 日間県営登攀施設で開催されました。 大会には、一般の部で競われる県体には男子 3 チーム、女子は 3 チームが出場。国体選手選考会には、高校生を中心とする少年男子 23 チーム、女子 6 チームがエントリーし二日間の熱戦が繰り広げられた。成績は次の通り。

ボルダリング競技

順位	1位	2位	3位
成年男子	北上山岳会 A 昆　脩太 山内　響	大迫山岳会 A 室塚　彬 川本　稔	北上山岳会 B 長谷川健太 坂本裕樹
成年女子	大迫山岳会 B 吉田智子 鈴木咲子	北上山岳会 坂本康子 熊谷千秋	大迫山岳会 C 小松加奈 菊池奈々子
少年男子	盛岡南高校 A 中島大智 石嶋魁人	岩手高校 A 佐々木建彰 昆野玲士	黒沢尻工業 阿部雅樹 山崎知也
少年女子	盛岡一高校 C 越前谷花紘 西森　優	盛岡第一高校 D　山村あゆ 石川彩花	盛岡南高校 西珠莉亜 沼田涼華

リード競技

順位	1位	2位	3位
成年男子	大迫山岳会 C 坂本大輔 中島　治	北上山岳会 A 昆　脩太 山内　響	大迫山岳会 B 高杉光昭 熊谷喜彦
成年女子	大迫山岳会 C 小松加奈 菊池奈々子	大迫山岳会 B 吉田智子 鈴木咲子	北上山岳会 坂本康子 熊谷千秋
少年男子	盛岡南高校 A 中島大智 石嶋魁人	岩手高校 A 佐々木建彰 昆野玲士	岩手高校 B 藤原晴輝 米倉司哲
少年女子	盛岡一高校 C 越前谷花紘 西森　優	盛岡南高校 西　珠莉亜 沼田涼華	盛岡第一高校 D　山村あゆ 石川彩花

愛媛国体選手・監督決定

県民体、国体選手選考会及びこれまでの大会実績に基づき 7 月 22 日(土)と 23 日(日)秋田市で開催された東北総体を経て国体山岳競技の出場選手が決定しました。今年の国体は、成年女子を除く 3 種別での出場となりました。10 月 1 日から 10 月 3 日の本国体に向けて頑張っていきます。皆さんの応援をお願いします。

種　別	監　　督	選　　手	選　手
成年男子	畠山　晃 (小本小)	山内　響 (神奈川大学)	昆　脩太 (スポー振)
少年男子	千葉真英 (盛岡南)	中島大智 (盛岡南)	石嶋魁人 (盛岡南)
少年女子	坂本康子 (岩手クライミ)	田中里旺 (盛岡一)	伊藤ふたば (松園中)

中央　岩手山頂オニヤンマ7/30

大人気の夏季親子ギッツクライミング・ボルダリングスクール

夏季親子ギッツクライミング・ボルダリングスクールが7月1日（土）・2日（日）・5日（水）の3日間、盛岡市の県営運動公園登攀施設で開催され、親子連れ170人がスポーツクライミングのリード、ボルダリングを体験。お父さんやお母さんより上手にゴールまで登る子や子供たちの頑張りにカメラを向け声援を送るお母さん等親子が一体と

なってクライミングを楽しみました。全国でも有数な施設が整備され、熱心な指導者達のガンバリにより、今年も大盛会。この教室から岩手を代表して活躍している選手も出ています。新たなヒーロー、ヒロインの誕生も夢ではありません。今回も、国体強化選手や岩手高校登山部の皆さんが全面的に協力してくれました。このスポーツクライミングスクールの模様は、県体協発行の「岩手県スポーツ指導者協議会会報」28号で紹介されています。

協会の法人化に向けて

登山界を取り巻く環境が大きく変化しているなか、岩手県山岳協会では、年度当初の方針に基づき組織の法人化へ向けて、「岩手県山岳協会法人化検討委員会」を組織し、これまで三回の検討委員会を開催し、財政、組織、、事業の現状と法人化のメリット、デメリット、今後の動向、法人化を想定した組織、定款、財務会計等について検討してきました、特に、なぜ今、法人化が求められているかについては、現在の協会の活動は加盟団体及び県民の登山やスポーツクライミング愛好者を対象として様々な事業を行ってきているが事業及び予算規模はかなり大きなものになっています。(28年度決算額、一般会計13,358,310円。山小屋会計6,864,567円。国体特別会計2,380,619円の合計22,603,496円)

協会活動の基盤をなすものは財政であり、様々な事業収益が財政を支えてきました。これだけの事業規模を有する団体として適正な事業執行と会計処理の徹底は避けることができない喫緊の課題です。コンプライアンスが厳しく求められる社会にあって、更に健全な会計処理体制を構築しなければならない時期に来ています。

平成25年度から日本山岳協会は公益社団法人へ移行し、平成29年4月からは、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会と名称変更。

(公財)日本体育協会も来年度から日本スポーツ協会に改称するなど日山協等の機構改革は急ピッチで進んでいます。当協会としてもこれから将来を見据えて組織体制及び運営の在り方について抜本的に検討すべき時期に来ています。法人化を進める第一の目的は財政の健全な運営を図ることにありますが、法人化によって今までの任意団体ではできなかった執行体制の強化及び事業活動の社会的信用を得ることが期待されます。更に、協会加盟団体の皆さんにとっても対外的な様々な登山やクライミング活動や啓発活動を行ううえで社会的信信頼を得ることができるなど将来に向けてしっかりとした基盤ができることが期待されます。一般社団法人化に伴う効果を上げてみたいと思います。

① 法人化の取得により社会的信用が高まること。
② 銀行口座開設や契約等各種法律行為の締結が法人名義で締結が可能となること。
③ 公益事業、共益事業、収益事業などを公に行うことができる。
④ 事務局職員の委嘱、任用が任意団体名で行うより有利である。
⑤ 官庁の委託事業や補助金の申請など法人格取得が有利に働くこと。

次に、法人化へ向けた具体的な手順ですが、当協会は、これまで会員のボランティア的な活動に支えられて公益事業と共益事業を展開してきました。その実績からしますと公益性の高い団体と云えます。

将来的には、公益法人が望ましいところですが、そのハードルは決して低くはありません。当面は、現在実施している事業、執行体制を基本として無理のない事業展開が求められます。従って、会員の登山技術の向上、山岳事故防止の啓発、岩手山八合目避難小屋の適正な管理、スポーツクライミングの普及、競技団体として国体上位入賞、世界へ向けた選手育成強化、そのための各種大会の開催、山岳スポーツ文化としてトレイルランニング大会の開催、ジュニア世代の育成等組織体制と運営体制の検証、経営学的なセンスでの協会運営、そのための定款等規程の整備、責任と権限の明確化を図ることが求められています。今後、一般社団法人化へ向けて定款の改定、会計システムの構築を図りながら法人化移行を目標に検討を加速していくことにしています。

類似の法人格比較表

法人格	一般社団法人	公益社団法人	NPO法人
設立手続き	登記のみ	認定申請	認証後登記
資本金	不要	不要	不要
定款認証費	約52000円	なし	なし
登録免許税	60000	なし	なし
設立者数	2人以上	２人以上	10人以上
監督官庁	岩手県	岩手県等	岩手県等
事業目的	公益・収益・共益事業	23の公益事業	17の特定非営利
設立に要する期間	1ケ月以内可能	認定に要する期間	２～4ケ月
適用税制	非営利法人（収益事業に課税）	原則非課税収益事業に課税）	原則非課税収益事業に課税）
寄付金優遇	なし	あり	なし
所轄庁報告	なし	毎年あり	毎年あり
法人税率 (所得800万円超) (所得800万円超)	 25.5 15.0	 25.5 15.0	 25.5 15.0
公益性の信用度	低い	高い	ある程度

法人化への移行は、協会として大きな歴史的な変革への歩みではありますが、70有余年の岩手県山岳協会の歴史を、その先へ発展させていくためには、避けて通れない道筋であると思っています。一般社団法人とはいえ非営利法人として、公益性の高い山岳スポーツ団体として進む必要があります。

第56回全日本登山大会北海道大会報告

今年で56回を迎えた全日本登山大会北海道大会が7月6日(木)から8(土)の３日間の日程でアンヌプリ、羊蹄山山系で開催されました。当協会からは日山協参与の矢羽々文一郎名誉会員を始め、滝沢市山岳協会(6名)、早池峰山岳会(2名)、福岡山好会(1名)、玉山会1名)の11名が参加し、全国の山仲間の皆さんと交流してきました。期間中天候にも恵まれ、メンバーは、ニセコ沼巡り、羊蹄山、京極コース、比羅夫コース等に分かれて猛暑の中、ちょうど岩手山登山の標高差と同じ 1478mの山頂を目指してイワブクロ、イワウメ、、ミヤマキンバイなどの高山植物の中を高度を上げ元気に登頂。下山後の交流会では、アイヌの民族芸能を堪能。二次会では八木原日山協会長等とひざを交えて懇談。来年は、京都が会場地となります。古都の山と文化、歴史に触れる良い機会かと思います。

日山協山岳保険に入ろう

日山協の山岳保険は、年度中途でも加入できます。多くの山岳保険がありますが、日山協の山岳保険は、登山ばかりではなく、日常生活でのケガも対象になります。また、ボルダリングやリード壁等でのロープを使用したクライミングもピクニックコースで比較的負担の少ない掛金での加入ができる等の利点もあります。賠償責任保険も加味されています。更に、加入者数によって山岳協会への還付金等もあり、万一に備えての加入をお奨めします。**年の中途での加入もできます。**

詳しい内容を知りたい方及び加入希望の方は、県山岳協会事務局へお問い合わせ下さい。

チーム岩手ドイツ・オーストリア合宿

８月１日(火)から９日(水)まで、チーム岩手として畠山晃理事長兼スポーツクライミング部長の引率のもと国体強化選手の昆　脩太(県スポ振)、山内　響(神奈川大学)、中島大智(盛岡南)、石嶋魁人(盛岡南)、田中里旺(盛岡一高)6 名をスポーツクライミングの強豪国のドイツ・オーストリアの現地合宿へ派遣しました。(伊藤ふたば選手は別途国内合宿)今回の合宿は、国際大会の開催施設で、世界で最もグレードが高くスケールの大きい施設への派遣で世界のレベルを肌で感じてもらうこと。国際感覚を身に付けて競技度胸を磨くこと。世界レベルのルート、課題を肌で感じてもらうこと等これからの選手生活の基礎となるものを経験するとともに愛媛国体へ向けての強化の一環として実施しました。以下、合宿レポートを紹介します。、

●　8/1（火）ボルダウエルト・フランクフルト店

飛行機がフランクフルトに降り、ホテルに 16 時にチェックイン。ジムはコンペウオールが区別されており、各壁面に 2～3 課題と贅沢。ホールドも同系統の物が揃えられ見た目も　美しいセットとなっていた。ワールドカップミュンヘン大会前なのでこのような大会仕様のセットが行われていたものと思われる。

●　8/2（水）スタジオブロック

今回の合宿のメインの一つとして設定した店舗である。欧州最大で世界的にも知られたボルダジムである。とにかく広くて大きい。そこに大型ホールドを中心とした今風の魅力ある課題がとにかくたくさん並んでいる。選手は試合形式で新しい課題に次々に挑戦していた。

●　8/3（木）移動　世界ユース会場

今回のもう一つのメインとして設定したのがインスブルックの世界ユース会場である。行ってみると全ての壁面が一般に貸し出され。世界各国チームが練習に来ていた。3 種目が屋内と屋外に揃っており世界最新施設と考えられる。移動の疲れも吹き飛び早速登りたいとのこと。特に大型ホールドで豪華にセットされたルートは本番さながらの感覚で、出場する中島選手には絶好の練習った。移動時間、運転 7 時間。

●　8/4（金）休養日

●　8/5（土）世界ユース会場（インスブルック）

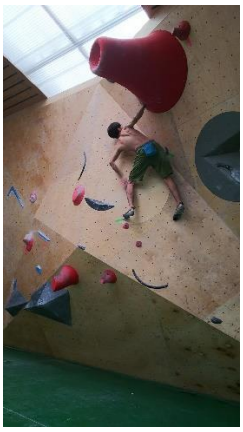
レストを一日挟んで、世界ユース会場での 2 日目は室内壁リード壁を中心に登り込んだ。日本よりはるかに規模が大きく、大型ホールドルートがあり貴重な練習となった。室内にもスピードがあり全員で最後に挑戦してみた。また室内には大型のボルダーエリアがあり、オーストリアのナショナルチーム練習用の課題がセットしてあった。選手たちはこれらボルダールートの大会想定課題にも積極的に挑戦していた。大会直前時期でのセットと考えられ。

●8/6（日）移動　ボルダウェルトミュンヘン

ミュンヘンを経由してボルダウェルのミュンヘン店に立ち寄った。ここもミュンヘンワールドカップ直前で、やはりコンペウオールがセットされており、選手達は連日の練習にも関わらず積極的に魅力的な課題にトライしていた。3 時間ほどであったが山内選手は全ルート克服した。

●8/7（月）スタントウェルト

ここもドイツナショナルチームのトレーニングが行われるジムとして関心を持ちケルンまで遠征。やはり広くゆったりとセットされている特に緩斜面での課題とコンビネーション系課題が選手には魅力的であった。各種トレ機器も充実していた。



● 8/8（火）スタジオブロック

いよいよ帰国の日であるがスタジオブロックに行きたいとのことで観光は消滅。行ってみるとドイツナショナルチームがいた。他にも各国代表選者がおり一緒に登ることができ非常に刺激になったよ

うである。2 日目できなかった課題を何度もトライし克服していた。

今回の合宿で特に良かったと感じたこと。

① ３チーム合同で遠征したこと

成年男子・少年男子・少年女子で遠征を行ったが力量の違う３種別一緒でいいか迷ったが

結果的に 3 チームの一体感を高め、それぞれが力量を高める貴重な機会となった。何よりも人数が多いこともあり、毎日楽しく練習ができ、結果的に集中した長時間練習を行うことができ、各個人の基礎力をアップできた。今回の合宿を支援してくださった県当局には感謝、感謝である。

② ワールドカップ・ワールドユース直前に遠征したこと

今回訪れた会場はどこも素晴らしいセットがなされており、選手はそれこそ日本では触れられない課題やホールドを次々と経験しクリアしていた。

これは施設の素晴らしさもあるが、やはりワールドカップ本番直前という時期が良かった。どの店舗・会場も各国チーム練習用に気合を入れてルート整備をしていた。さらに大会直前でドイツ、オーストリア、イタリア、スロベニア、カナダ、フランス、オーストラリア、ブラジル等のナショナルチームが来訪しており一緒に練習ができ、選手たちには非常に大きな刺激となった。

③ レンタカーにより効率的に練習会場を回れたこと

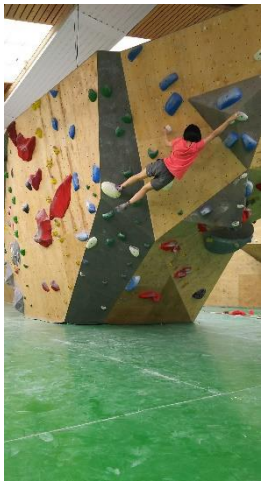
選手達の要望に応えこれだけの施設を回り大量の最新課題を短期間で経験することができたのはやはりレンタカー活用の効果が大きい。到着日、

出発日、移動日に空いた短時間にも新店舗・会場を回ることができた。また、その日の選手達の体調に合わせ自由に出発し、練習を終えることができた。またどの施設も郊外の不便な場所にあるが、選手達を疲労させずに移動させることができた。海外運転はこれからも修練が必要であり、海外合宿成功の大きなポイントと感じられた。

海外合宿を終えて　　山内　響

昼間にフランクフルトに到着することができ、到着初日から練習に励むことができた。初日に訪れたのは、ボルダーウェルトフランクフルト店である。最近日本にも進出してきたコンペティションウォール(日本だと B-PUMP 荻窪店など)があり 1 つの壁の傾斜に対し、課題が 2～6 本程しか存在しておらず大きなホールドを使って壁の面積を最大限に使った課題が用意されていた。中でもスラブは 2 課題しか存在せず本番さながらの練習を行うことができた。

翌日向かったのは世界的にも有名な Studio Bloc である。私がいままで行ったボルダリングのみのジムでは最大の壁面積をほこるジムであった。良いところは面積だけでなく課題の内容も充実していた。Studio Bloc にもコンペティションウォールが存在し、面積はボルダーウェルトのコンペティションウォールの 2 倍はあったと考える。ドイツのセッターだけでなくスロベニアなどの周辺国からセッターを呼び多彩な動きが課題に組み込まれていた。日本にまだ輸入されていないホールドをたくさん使用されていて非常に内容の深い練習をすることができた。課題数が多く､1 日では全て触りきることができなかったため、最終日にも訪れた。



3 日目はオーストリアに拠点を移し、世界ユースの会場となるインスブルックで練習を行った。今年の 4 月に完成したばかりの施設でリード、ボルダリング、スピードと 3 種目揃った素晴らしい施設だった。3 種目とも屋外と屋内、双方に存在しており天候が荒れても練習できる施設であった。スロベニア、イタリア、カナダ、ドイツ、スイスなど各国のトップ選手が訪れて練習を行なっていた。さながらワールドカップの会場のような環境であった。ここでもナショナルトレーニングが行われておりその課題に触れ日本では触れることができないヨーロッパの特徴的な課題を体感することができた。 4 日目は休息、5 日目にもインスブックに訪れた。 6 日目は 8 月の中旬にボルダリングワールドカップ最終戦がミュンヘンで行われるためドイツチームがナショナルトレーニングを行なった課題がありワールドカップを意識した課題に触れることができた。

7 日目は今年初めて訪れたケルンにあるスタント Stuntwerk に向かった。ドイツのナショナルトレーニングを行なった事で有名なジムであったので特徴的な癖のある課題が多く良い練習になった。壁以外にもトレーニング器具が充実しておりトレーニングの参考になった。

8 日目の最終日にも Studio Bloc に訪れた。ドイツのユースのチームがナショナルトレーニングを行っており、その課題にも触れることができた。他にもロシア代表のトップ選手や、オーストラリア代表、ブラジル代表など各国から選手が訪れていた。各国の選手と共に練習を積

みStudio Blocの環境の良さを改めて知ることができた。同時に私たち岩手チームも各国の代表にも決して劣らないと感じた。

ヨーロッパの壁はリード、ボルダリングともに面積が広く課題の量がとにかくあることが利点である。そしてホールドメーカーとセッターもヨーロッパに固まっているため日本にはないものを触ることもできる。ボルダリングワールドカップとインスブルックで開かれる世界ユースの直前だったため非常にクオリティの高い課題が用意されていた。ほとんどのジムが大会向けの課題となっていた。日本は壁面積を広く設けられないためホールドが密集した壁が多い。しかし、このホールド密集壁も日本の魅力であると私は今回の合宿で感じた。日本の選手は保持力に優れている。それは密集壁のトレーニングのおかげだと考えた。ヨーロッパのジムは密集壁がほとんどなく、ヨーロッパの選手も保持力に特化はしていないからである。ヨーロッパと日本でのトレーニングをバランス良く行なっていけば、さらなる成長へと繋がるのではないのであろうか。

オーストリア・ドイツ合宿の成果と課題　中島大智

オーストリアではリード中心に、三種目全てを、ドイツではボルダーを中心にトレーニングしました。

リードでの成果としては、ワールドユースの会場であるインスブルックの壁で登りこむことができ、体を会場の壁に慣らすことが出来た事、普段触ることの出来ないたくさんのボリュームで作られたルートに触れ、苦手なボリュームでの体の使い方を体に染み込ませることが出来た事です。

課題としては、オンサイト能力の低さを感じました。ゴール一手前で押し切れずに落ちてしまう場面がたくさんあったので岩手に帰ったら最後まで諦めずに上まで登りきるトレーニングをしたいと思いました。

ボルダーでの成果は本場ドイツの作り込まれたルートにたくさん触れる事ができた事と、コンペ形式での練習が沢山できた事です。ドイツのルートはコーディネーション系が多く、自分の苦手な動きだったので、ここでこの動きに体を慣らすことができたのは世界で戦う上でとてもいい経験になりました。

コンペ形式では、ドイツのスタジオブロックで5分5課題を2ラウンド、インスブルックでは、会場の壁で1ラウンド行いました。短期間でこの数のルートをコンペ形式で行う事は日本ではまず出来ないので、良いトレーニングになりました。課題としては複雑なムーブを読み取るのに何トライもかかってしまう事があったので、ムーブの解析能力を高めなければいけないと感じました。今回とても強く感じたのは、日本では出来ない事、しかし、世界で戦うためには必要な事が世界には沢山あるという事です。今世界ユースを間近に控えたこの時期にこの経験が出来たことは必ず結果に結びつくと思いました。

海外合宿に参加して　　石嶋魁人

今回の海外合宿では、 ボルダーでの成果は普段あまり取り組むことができないコーディネーションなどの練習が必要なルートをたくさん練習することができ感覚を身に付けることができた。日本ではない大規模なコンペティションウォールを使いコンペ形式で本気トライをするなど普段できない経験ができた。

ボルダーでの課題は自分のルートを読む能力の低さやコーディネーションなどの普段の練習が少ないものでの感覚がすぐにつかめないということを自分は感じました。リードでの成果はボリュームを使った体の動きや、普段より長距離の課題でのルートのトライ練習をたくさんすることができ持久力トレーニングなどをたくさんできた。リードでの課題は長距離の課題を動作することで自分の持久力の低さを実感した。ルートを読む能力の低さも感じたのでこれからの練習では高い難度の課題をオンサイトする練習などを今までよりたくさんしていきたい。スピードでは、初めてということもあり感覚がうまくつかめなかったので機会を作って少しずつ練習していければ良いと思う。

今回の海外合宿では、本当に普段練習することのできないことをたくさんすることができた。

海外合宿に参加して　　田中里旺

今回の海外合宿から色々知ったことがありました。まず、海外のスケールに少し慣れました。リード壁の高さは日本のより高かったですが、何本も登っているうちに高さにも慣れて、持久力も合宿前よりついたと思います。また、ボルダーでも、課題の作りが日本とは少し違い、それらに取り組むことによって合宿前よりいろいろなタイプの課題に対応する力がついたと思います。さらに海外での合宿では、普段あまり取り組まない課題に取り組むことにより自分の弱いところも発見することができました。選手の成長のためにこれからも実施する意義があると思います。

ドイツ・オーストリア合宿を終えて　昆　脩太

今回の合宿で壁のスケールの違いを感じました。実際に来て登ってみると日本のジムはまだまだ小さかったのだなと感じました。壁が大きく、ホールドも豪華で、とても登りたくなるような壁でした。小さいホールドは日本よりも少なく保持系よりも、動きやバランス系が多いように思いました。大きな大会では、見た目なども重視して、大きなホールドで大きな動きの課題も多いので、日本のジムではなかなかできない、より実践的な練習ができました。なによりその練習を毎日できたのがとても大きいと思いました。日本でも大きなジムに行けばコンペティションウォール等で大会を想定したトレーニングができますが、課題数も少なく、またその規模のジムも少ないので、今回は毎日コンペをしているようでした。ドイツのスタジオブロックには２回行きましたが、２回目行ったときに一部セットが変わっていて、ドイツチームの練習が行われていました。壁が大きい分、頻繁にセット替えができるので、短期間でも一か所で多くの課題を触れるのはお得だと思いました。ボルダーで多くの課題を触ってみて、自分は動き系があまりできなかったのでこれから鍛えていく点だと感じました。インスブルックでのリードでは、２０m近くの高い壁で練習できました。日本の課題よりもフットホールドがしっかりついていて、しっかり足を拾って登っていくような印象でした。またルートが長い分、単純な持久力とムーブの読みが重要でした。課題数が多かったので、リードでは同じ課題はほとんど触らず、多くの課題を触り、自分のオンサイト力を試しました。持久力強化が必要だと感じました。今回の合宿では、クライミングに集中できる環境で練習できたことと、世界の壁・課題を知れたことの２点が大きかったです。岩手国体も終わった中で、海外合宿に連れて行ってもらえたことはとてもありがたいことだと思います。正直、毎日登りっぱなしで若者についていくのは大変でしたが、初海外での生活も楽しく、普段ではできないような経験をし、自分の中の視野が少し広がりました。昨年は少年男子だけでしたが、今年は岩手チームで連れていってもらい、チームとしてのまとまりもできてきたような気がしました。ぜひ今後もこのような合宿を行ってほしいです。

ドイツ・オーストリア合宿について　　畠山　晃

岩手国体も終わり、今年はゆっくり山でも行くかと思っていたら、東京五輪に向けスピード壁整備を知事が表明、その直後に伊藤ふたばのボルダリングジャパンカップ最年少優勝、そして山内響の八王子ワールドカップ出場、中島大智の日本代表入りと、気が付くととてものんびり山歩きなどしている場合ではなくなっていた。県の強化委員にもなりクライミングの子供達が今度は世界で活躍する方策が強く求められていた。国体であればイメージできるがオリンピックとなると皆目見当もつかなかった。ただ私も教員「環境が子供を育てる」という原則、は頭にあり、世界のトップが練習しているような「環境」に彼らを連れて行こうと考えた。ベースとなったのは岩手国体直前に行った少年男子オーストリア合宿であった。昨年の合宿よりさらに練習時間が多く確保できるようフランクフルト便を選択した。今回の合宿で目指したのは伊藤ふたばから要望があった「広い壁を使ってコンペのような練習がしたい」「コーディネーション系の課題を多く練習したい」との要望に応えることであった。この要望にはまず応えることができたのではないかと思う。国内であれば通常は東京荻窪パンプのコンペウオール 10 課題程度しか体験できないのが。スタジオブロックだけでも 40～50 課題、他店舗等も合わせると優に 100 課題近くを見たり、体験したりできたのではないか。この中

には当然多数のコーディネーション系課題が含まれ、非常に効率良く大型ホールドで構成されたコンペ課題を体験させることができた。これは今後も世界を狙う上で非常に有効と思われた、事実各国チームが団体あるいは個人で来訪していた。さらに今回良かったのは、インスブルックワールドユース会場が完全に一般利用でき中島大智に文字通り下見をさせられたことであった。この部分は国内では全く情報が無く行って初めて分かったことである。

もう一つ私の「環境」という言葉の中で体験させたいと思っていたのが「人」である。世界のトップ選手や指導者との交流がどうにか図れないものかということであった、しかし一地方の指導者である私がこれを事前に段取ることは困難であった。この部分も現地に行ってみるドイツ、オーストリア、スロベニア、スペイン、イタリ

ア等各国チームが会場や店舗でチームや個人で練習しており、声を掛け合う場面が多く見られ、こちらが仕組まなくとも岩手の子供たちは自由に交流していた。というより岩手の選手達が強く、逆に各国の代表から注目され声をかけられ、拍手される中で自然と交流が進んだといった方が正確かもしれない。このようなところにも日本のレベルの高さを感じた。

3チーム合同での海外遠征は今回初である。全国的にもこのような県単独での海外遠征はほとんど見られない中、世界に向けた岩手の子供たちには大きな刺激となったものと思う。そして世界と戦っていく方策の一端が見えてきたような気がする。「驚異的な持久力」と「アクロバティクな動き」そしてあの「タフさ」が同居するトップ選手たち。今回周った施設の規模のケタ違いの大きさ、

（　スタジオブロック　フランクフルト近郊）

課題の質の高さ、そしてそこに集い切磋琢磨しあう国際的な選手達の姿、その源泉がある程度理解することができたように思う。「国内で鍛えられる力」と「海外でなければつけられない力」があるように思う。この点を今後の強化に徹底的に生かしたい。

合宿を支援くださった県当局、県体育協会、そして県山岳協会には深く感謝申し上げたい。

（理事長　畠山晃　）

第２回岩手県山岳協会評議員会開催

平成 29 年度第 2 回岩手県山岳協会評議員会が８月８(火)日午後 7 時から盛岡の県体協会議室で開催されました。出席者は、大坊孝男(玉山)、千葉洋一(RCC)、佐藤安美(和賀町)、北口睦男(アルペン) 、佐藤均(盛岡山岳会)、佐藤俊一(悠々)、菊池長一郎(早池峰)、村上伸男(翌檜)の各評議員、執行部は高橋会長、武田、小山副会長、植田、佐藤副理事長、小野寺事務局長、遠藤競技運営部長、土井指導部長が出席。

平成29年度県体協体育功労者及び日本体育協会公認指導者表彰の被表彰者候補について諮問し決定。県教委教育功労表彰対応方針確認。報告では、南東北インターハイ盛岡一高諸氏優勝、法人化検討委員会経過報告、平成29 年度事業実施状況報告、山の日制定記念イベントみんなで鈴木大地長官と登ろうキャンペーン等について報告した。

新加盟団体

友愛病院　山の会　会員数　17名
平成29年8月22日加入
代表・事務局　中島隆之

みんなでふるさとの山を登ろう！パートⅢ　岩手山荷上登山へ協力をお願いします。

祝日山の日制定記念事業として岩手山八合目避難小屋の宿泊用毛布の更新にあたり加盟団体の協力を頂き毛布の荷上げ登山を実施しています。毛布1パック(8.5ｋｇ)を八合目避難小屋へ荷上げし、古い毛布を登山口まで下げた際は、1パックあたり**1,500円を支給します**。

期間は、9月24日(日)まで。毛布は柳沢の白樺商店においてあります。背負子も、数台おいています。利用後は元の所へお返しください。

秋山登山と体力強化を兼ねてご協力ください。詳しくは、山口吉男登山普及部長へお問い合わせください。

(090-1933-2445)

平成29年度第５回常任理事会

7月26日(水)　盛岡市　県体協会議室 24名出席

○　報告

(1) 夏季親子キッズクライミング・ボルダリングスクールについて(スポクライミング部)
(2) 那須岳遭難事故中間報告について(指導部)
(3) 岩手山山開きコラボレーション山の日制定キャンペーンイベントについて(登山普及部)
(4) 第44回東北総合体育大会山岳競技報告について(スポーツクライミング部)
(5) 2017 鞍掛山レイルランニング大会開催
(6) IFSC アジアユーススポーツクライミング大会結果について
(7) 第２回法人化検討委員会の開催について
(8) 岩手県遭難対策協議会の設置について
(9) 岩手山八合目避難小屋管理状況について
(10) 第62回全日本登山大会参加報告について
(11) 東北高等学校登山大会の結果について

5　協議事項

◆　事務局

(1) (公財)日本体育協会指導者表彰者の推薦
(2) (公財)岩手県体育協会体育功労表彰者の推薦

(3) 29年度第1回岩手県山岳協会評議員会の開催
(4) スポーツクライミング選手強化募金(国体募金)活動

◆ 指導部
(1) 沢登り講習会、岩登り講習会について
(2) 指導員会県外研修会開催について

◆ 登山普及部
(1) 岩手山８合目避難小屋管理状況について
(2) 山の日岩手山８合目臨時診療所の設置対応

◆ スポーツクライミング部
(1) 第72回愛媛国体選手・監督の決定について
(2) 国体強化選手の海外強化合宿について
(3) 伊藤ふたば選手のカナダナショナルチーム招待に伴う遠征について
(4) 世界ユース選手権大会への選手出場について
中島大智(盛南)・伊藤ふたば(松園中)

◆高体連
(1) 新人戦について

経過及び予定

第４回常任理事会以降動き　6/7(水)

6/7(水)　第４回常任理事会
6/8-9　国体リハーサル大会・リードジャパンカップ
愛媛県西条市
6/10(土)　岩手山ボッカ大将　岩手山
6/14(水)　６月日山協常務理事会　東京
6/16-18　アジアユース国内合宿　大阪
6/18(日)　裏岩手連峰開山祭　松川温泉
6/24(土)-25(日) 県民体育大会・国体選手選考会
県営運動公園
6/23(金)-25(日)東北高等学校登山大会　宮城蔵王
7/1(土)　岩手山山開き
7/1(土)　スポーツ庁長官鈴木大地参加山の日制定記念「ふるさと岩手の山を登ろう」イベント
7/1(土)・2日(日).5日(水)　親子ギッツクライミング・ボルダリング

7/6-8(日) 全日本登山大会　北海道ニセコ山系
7/16(日) 2017鞍掛山トレラン大会
7/21(金)-23(日)東北総体　秋田市
7/26(水)　第４回常任理事会　盛岡市
7/27(木)　第２回法人化検討委員会　盛岡市
7/27(木)　中島大智世界ユース出場花巻市長表敬挨拶
7/30(日)～8/3(木) 南東北インターハイ　山形県
7/31(土)～8/10(木) 岩手県チームドイツ・オーストリア合宿
8/8 (火)　第２回評議員会　盛岡市
8/4(金)～8/5(土)　ジュニア登山教室　岩手山
8/6 (日)　岩登り講習会　遠野市
8/9 (水)　日山協常務理事会　東京
8/11(金)　山の日
8/11(金)～12 日(日)岩手山八合目夏山臨時診療所 岩手山
8/25(金)　伊藤ふたば・中島大智世界ユース盛岡市長表敬
8/27(日)　沢登り講習会
8/27(日)　サマーセッション・ボルダリング　運動公園
8/27(日)　臨時部長会　盛岡市
8/30(水)　第３回法人化検討委員会　盛岡市
8/30(水)-9/10(日)世界ユース選手権大会インスブルック
8/31(木)～3 日(日)　日本の名峰登山　苗場山ほか
8 月下旬　山協ニュース 201 号発行
9/3(日)　日山協臨時理事会　東京
9/13(水)　第６回常任理事会　盛岡市
9/7～10/10 岩手山八合目避難小屋常駐木～日と祝日へ移行
10/1～3　愛媛国体
10/21～10/22 岩手山八合目避難　冬小屋へ切替
11/5　第 15 回ボルダリング大会
10/6～10/8　高体連新人戦 網張スキー場から黒倉山

鈴木長官山頂
インタービュー

夏山から秋山へ
紅葉のシーズンに入ます。
日没が早くなり、急激な気温の変化も見られます。
山は、みぞれの心配もあります。油断せずに、しっかりした装備と早めの行動に努めましょう。